文学部

NOMURA Koichiro

PROFILE

職名

京都橘大学副学長
文学部
日本語日本文学科教授

学歴

立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程修了（1995）

学位

博士（文学）（立命館大学、1995）

所属学会

日本近代文学会、日本文学協会、昭和文学会

専門分野

国文学

野村　幸一郎

のむら こういちろう

研究課題1 ● ナショナリズムと文学

研究課題2 ● 白洲正子

業　績

【著書】

『作家の世界体験―近代日本文学の憧憬と模索』／世界思想社、1994年4月、共著。
『都市モダニズムの奔流―「詩と詩論」のレスプリ・ヌーボー』／翰林書房、1995年3月、共著。
『森鷗外と日本近代』／白地社、1995年3月、単著。
『明治文芸館Ⅳ』／嵯峨野書院、1999年11月、共著。
『これからの日本文学』／金壽堂出版、2001年3月、共著。
『明治文芸館Ⅰ』／嵯峨野書院、2001年4月、共著。
『大正文学史』／晃洋書房、2001年11月、共著。
『森鷗外の歴史意識とその問題圏』／晃洋書房、2002年4月、単著。
『悪女の文化誌』／晃洋書房、2003年3月、共編著。
『近代日本の象徴主義』／おうふう、2004年3月、共著。
『明治文芸館Ⅲ』／嵯峨野書院、2004年3月、共著。
『明治文芸館Ⅴ』／嵯峨野書院、2005年10月、共著。
『小林秀雄　美的モデルネの行方』／和泉書院、2006年9月、単著。
『女の怪異学』／晃洋書房、2007年3月、共編著。
『明治の職業往来』／世界思想社、2007年3月、共著。
『歌集　昭和残詠』／白地社、2007年9月、編著。
『現代文③教授資料』／数研出版、2008年4月、共著。
『母と娘の歴史文化学』／白地社、2009年3月、共編著。
『宮崎駿の思想―広場の孤独・照葉樹林・アニミズム』／白地社、2010年3月、単著。

【論文】

「森鷗外『青年』論」／修士論文、1992年3月、単著。
「森鷗外『鼠坂』論」／『日本文芸学』第29号、1992年11月、単著。
「ナショナリズムの文学―徳富蘆花『不如帰』の物語構造」／『解釈』第39巻3号、1993年3月、単著。
「森鷗外『青年』の構造」／『論究日本文学』第58巻、1993年6月、単著。
「森鷗外論―明治四十年代を中心に」／博士論文、1995年3月、単著。
「鷗外文学とオイケン思想」／『立命館文学』第560号／立命館大学人文学会、1995年7月、単著。
「柄谷行人の批評言語」／『国文学解釈と鑑賞』別冊、1995年12月、共著。
「天地生存の思想―国木田独歩論序説」／『解釈』第42巻4号、1996年4月、単著。
「鷗外文学と天皇制―『かのやうに』について」／『鷗外』第59号、1996年7月、単著。
「川端康成『浅草紅団』論」／『大阪青山短大国文』第12号、1997年2月、単著。
「森鷗外『阿部一族』の方法」／『国語と国文学』第75巻2号、1998年2月、単著。
「鷗外文学とサンボリズム」／『大阪青山短大国文』第13号、1998年2月、単著。
「明治の社会ダーウィニズムと美的生活論争」／『国語国文』第67巻7号、京都大学国語学国文学研究室、1998年7月、単著。
「牧野信一の実験―自意識の解体をめぐって」／『クリティシズム』第2号、1998年11月、単著。
「小林秀雄」／『国文学解釈と鑑賞　別冊　坂口安吾と日本文化』1999年8月、単著。
「大正のベルグソニズムと与謝野晶子」／『与謝野晶子研究』第5号、1999年11月、単著。
「歴史と主体―森鷗外論」／『森鷗外研究』第8号、1999年11月、単著。
「与謝野晶子の批評―ベルグソニズム受容を視座として―」／『京都橘女子大学研究紀要』第26号、2000年3月、単著。
「没落士族のナショナリズム―明治初期の政治小説―」／『京都橘女子大学研究紀要』第27号、2001年2月、単著。
「小林秀雄の私小説批評―日本資本主義論争との接点」／『京都橘女子大学研究紀要』第28号、2002年1月、単著。
「意識と宿命―小林秀雄『様々なる意匠』―」／『京都橘女子大学研究紀要』第29号、2003年1月、単著。
「小林秀雄　初期批評と形式主義論争」／『京都橘女子大学研究紀要』第30号、2004年1月、単著。
「フェノロサ―反オリエンタリズムの構造」／『国文学』第50巻1号、2005年1月、単著。
「古代朝鮮と日本―坂口安吾の日鮮同祖論」／『国文学』第50巻12号、2005年12月、単著。
「アジアへのまなざし―鷗外・天心の黄禍論批判」／『文学』第8巻第2号、2007年3月、単著。
「都市漂流民のナショナリズム―林芙美子と日支事変」／『京都橘大学女性歴史文化研究所紀要』第15号、2007年3月、単著。
「保田與重郎と東京裁判」／『言語文化論叢』第1巻、2007年9月、単著。
「坂口安吾と東京裁判」／『言語文化論叢』第2巻、2008年9月、単著。
「交通空間としての満州―夏目漱石と後藤新平」／『言語文化論叢』第3巻、2009年8月、単著。
「保田與重郎のアジア主義」／『言語文化論叢』第4巻、2010年8月、単著。
「白洲正子の能楽論―日本文化へのまなざし」／『京都橘大学女性歴史文化研究所紀要』第19号、2011年3月、単著。

【国内学会発表】

「森鷗外『鼠坂』論」／日本文芸学会春季大会、1992年6月、単独。
「森鷗外『青年』と東京」／日本近代文学会秋季大会、1992年10月、単独。
「森鷗外『阿部一族』の方法」／日本文芸学会夏期研究集会、1996年8月、単独。
「坂口安吾の小林秀雄批判」／立命館大学日本文学会、2002年6月、単独。
「宮崎駿と照葉樹林文化論」／日本比較文化学会関西支部、2010年3月、単独。

【その他】

＜目録＞「坂口安吾主要参考文献目録」／『国文学解釈と鑑賞』第58巻2号、1993年2月、単著。
＜目録＞「柄谷行人主要参考文献目録」／『国文学解釈と鑑賞』別冊、1995年12月、単著。
＜紹介＞「矢部彰著『森鷗外明治四十年代の文学』『樋口一葉私論』」／『日本近代文学』第54集／日本近代文学会、1996年5月、単著。
＜紹介＞「手掘りの鷗外像　瀧本和成著『森鷗外　現代小説の世界』」／『国際啄木学会会報』第8号、1996年10月、単著。
＜書評＞『心の棲み家　昭和の作家群像』萬田務著／『論究日本文学』第70巻、1999年6月、単著。
＜書評＞『鷗外を読み拓く』（大塚美保著）／『国語と国文学』80巻12号、2003年12月、単著。
＜書評＞「目野由希『明治三十一年から始まる鷗外史伝』」／『日本近代文学』第69集、2003年。
「時事批評文を書いてみよう」／『国文学』第51巻11号、2006年11月、単著。
＜紹介＞「〈アジア〉という表象―保田与重郎の問題系」／『出版ニュース』、2007年6月、単著。
「東京裁判と文学」／『PS JOUR NAL』2008年4月、単著。
「女帝の肖像―坂口安吾『道鏡』の問題圏」／『CHRONOS』31号、2009年10月、単著。
「村上春樹と図書館の女」／『CHRONOS』32号、2010年11月、単著。